

IFLA 東京大会への道のり

今 まど子

戦前

1927年スコットランドはエディンバラで英国図書館協会の創設50周年の会が開かれ、そのときに参加した海外の15カ国の図書館協会の代表が署名して「図書館員と書誌学者の国際委員会 (International Committee of Librarians and Bibliographers)」が発足した。

1929年第1回大会がイタリアのローマおよびベネチア開かれた。日本からは森本 泉が参加し日本の図書館界の報告をした。その後、第6回(1933年)石川林四郎(東京文理科大学)、8回スペイン、10回パリ、11回ベルギー、12回オランダ、と5回パリの日本大使館の書記官佐藤醇造が出席し、日本の図書館事情を報告し、大会の事情を日本側に報告しているので当時の事情を知ることができる。しかし、佐藤は図書館員ではないので、図書館界の国際交流には至らなかった。しかし、飛行機は未だ無く日本からヨーロッパまで船で40日近くかかり、その渡航費用も莫大な額に上った時代であったから、やむおえなかった。1939(昭和14)年のオランダ大会を最後に第2次世界大戦によって、国際交流の流れは止まった。

戦後

戦後は、1947年ロックフェラー財団の援助を受けオスロー大会からIFLAは再開した。

1952年4月占領が終結し、日本が独立し主権を回復するや直ちにIFLAに再加盟した。これは18回大会に当たりコペンハーゲンで開催され、日本からは富永牧太(天理図書館長)が参加した。

1964年の東京オリンピック、新幹線開業、70年には大阪での日本万博、東名高速道路開通などが相次ぎ、日本は復興し経済的にも成長し始めた。有栖川公園に都立中央図書館が開館したのは1972年のことである。

その頃から図書館人も海外に出かけるようになり、IFLA大会にも複数の図書館人が出席し始めた。ヨーロッパに出かける人に協会はIFLAへの出席を依頼していたということなのでIFLA側との交流は期待できなかった。

197x年に国会図書館の総務部長の酒井 悌氏が渉外委員会の委員長であったが辞任され委員長は空席になっていた。1977年のJLAの理事会で委員長に女性がいないのは片手落ちだ。女性の委員長を置くようにという提案が出された。委員長が空席になっているのは渉外委員会だけであったので、その席に私が推薦された。秋になって叶沢事務局長から話があり、私は引き受ける決心がつかず、酒井氏に相談に行った。暫く考えておられたが、「やんなさいよ。あんたを二階に上げて梯子をはずすような事はせんから。」と言われて引き受けることにした。

国際交流委員会

最初の仕事は、「渉外委員会」という名称を「国際交流委員会 (International Relations Committee)」と変えた。委員長はIFLAに出席する、アジア部会の常任委員になることがJLAの理事会で認められた。

1978年のストルスカ・プレツ (チェコ・スロヴァキア) というスキー・リゾートで第44回のIFLA大会に出席したのが最初であった。できたばかりの8番目の部会であるアジア部会の委員になり日本から始めての役員であった。チェコでは委員長が欠席で、司会を代行した。

日本から来たといっても知人は無いし、日本に公共図書館はあるの?とか図書館協会はあるの?といった質問をされ、帰ってくればIFLAってなによ。ときかれるので、これはいけない、日本国自体の知名度が低い、国内ではIFLAの知名度はゼロである。二つの知名度を上げるために、IFLAへの参加団を募ることを思いついた。翌年のデンマークは参加者ゼロであった。宣伝が足りなかったと反省した。1980年のマニラ大会は、アジア地域それも第3世界で始めての大会であり、近いこともあって参加者は52名(アメリカにつぐ)にも上った。閉会式で浜田理事長が6年後に日本で大会を開くことを宣言し大喝采を受けた。それからが大いそがしになった。しかし、そこに至るまでの経緯があった。

IFLAは年1回の大会を加盟国回り持ちで開かれるが、理事会を年3回開いていて1974年に日本で開催すること決まった。それはJLAが世田谷に図書館会館が完成したのを記念して、国会図書館の協力を得て5月27~31日まで開かれた。HリーバースIFLA会長始め10人の理事が海外からやってきた。2年後の1976年には韓国でWord Seminarが開かれ、日本から30名が参加した。このようにIFLAとの関係が密になると、次第に日本で大会をと言う声が開こえてくるようになった。さらに2年後の1978年にNDLの30周年記念に「図書館協力ネットワークに関する国際シンポジウム」が開かれた。スピーカーにLCのブアステイン館長、ケルケゴールIFLA会長らが招かれ、ケルケゴール会長は開会の挨拶で「日本も大会を開く時期に来ている」と大会開催を促した。1980年にマニラで大会が開かれると言うのに経済的にも発展し始めた日本が開かないことはもうできなくなって、JLAの理事会でも本気で議論されるようになり、マニラ大会での発表に繋がったのである。マニラでは国会図書館を中心に9点の発表があった。

日本委員会の結成

マニラ大会で、日本での開催を発表したので、まず、日本側で受け皿をつくらなければならなかった。そこで、1982年1月IFLA日本委員会を組織した。メンバーはIFLAの加盟している7協会と8機関であった。IFLA事務局次長とカナダのモントリオール大会の組織委員長が来日し結成パーティが開かれた。永井道雄会長挨拶。さらに5回の会合を重ね1983年<第52回IFLA東京大会組織委員会>を立上げた。そのなかに専門委員会と実行委員会を置いた。第I専門委員会はIFLAのプログラム、広報関係。第II専門部会は宿泊、行事、ツアー関係、第III専門部会は総務関係と決まった。募金委員会など設置。

その後もIFLA関係者の来日が増え接待も仕事であった。

①会費と選挙権

正式なメンバーは会費を支払うが、会費はUNESCO分担金の0.1パーセントなのだが、当時の日本は開発途上国(Underdeveloped Country)であったから、会費を割引して支払っていた。51万円であったが、まともに払うと240万円であった。当時のJLAは急に5倍になっては払え

ないので、国会図書館と折半することになった。そして他の図書館関係の協会にも働きかけて半分の120万円さらに20に割って1口6万円で医学図書館協会や全国SLAなど加盟している協会と分担することになって、見通しがついた。

選挙権は日本は20票と会費に伴って最高で、選挙権の行使についても話しあった。

②テーマの決定 プログラム

1983年のミュンヘン大会にテーマを持参することになっており、何度も会合を開き、図書館雑誌で呼びかけたり、口コミによったりしてテーマを集め、何度も会合を開き白熱の議論を繰り返した。次のように決まってIFLAに提出した。

「21世紀への図書館」サブテーマ 3つ 組織委員会で承認さる。別紙

③大会発表者 プログラム委

日本で開催するなら、日本人の発表者を沢山出したいと思ってIFLAの8つの部会に対応して委員会を組織した。委員長にはIFLA側と顔をつないで交渉をするLiaison Personになってもらった。その作戦はIFLAにも評価され、成功して東京大会では49点もの発表者を得た。

④会場 (佐野友彦)

青山学院 IFLAは大規模な大会で1度に約22の会議が開かれるので、大学のように沢山の教室がある所が望ましかった。会場は地の利がよく、ホテルが沢山あり、他のイベント会場に近い所が条件であった。

⑤公用語とペーパー・ワーク (石塚英男)

公用語は戦前はフランス語であったが、当時は英・仏・独・露の4カ国語それに特別日本語を加える。同時通訳はIFLAから13人送り込まれた。その他は日本でをそろえねばならなかった。それらの言葉でペーパーが出されるので、部会、分科会の登録者に行き渡る部数を印刷する必要があった。外国語のペーパーを日本語に翻訳の仕事も大変であった。膨大な印刷量で大日本印刷とその子会社が請け負った。

⑥プレコンフェランス・セミナー (宮川隆泰委員長)

年次大会の前の1週間開発途上国の中堅図書館員を20名程度集めて、公共図書館、大学図書館、図書館員の教育などのテーマを決めてディスカッションをしたり、図書館や情報センターの見学をしたりして、その国の将来のリーダーを育てるというためのものであった。マニラでは松村多美子さんがペーパーを読んだ。私はオブザーバーで出席した。東京大会のプレコンフェランス・セミナーは金沢工業大学(石川県)で行われ、テーマは初めて「専門図書館」が取り上げられた。

IFLA 東京大会テーマ決まる

1986年8月に開かれる I F L A 東京大会のテーマが、去る4月2日の I F L A 専門委員会において承認された旨連絡がありました。

昨年、『図書館雑誌』5月号(p315)での呼びかけに応じ、手紙や電話でテーマの案を、会員の皆様からたくさんお寄せいただきました。

I F L A 東京大会準備委員会の中にプログラム委員会を設け、国際交流委員の方々のご協力を得て、皆様から寄せられたご意見を中心に議論を重ね、I F L A 専門委員会と連絡をとりながら、テ

ーマを決め、サブ・テーマを展開、翻訳して、期日までに提出いたしました。

その結果、この度の承認となった訳です。1986年には世界の図書館人が21世紀を目指しそれぞれの図書館への理想を抱いて東京に集うのです。皆様の更なるご支援をお願いいたします。ご協力を深謝し、ご報告致します。

I F L A 東京大会実行委員長

高橋 徳太郎

第52回国際図書館連盟 (I F L A) 東京大会テーマ

52nd IFLA GENERAL CONFERENCE-TOKYO 1986

メインテーマ：21世紀への図書館

The main theme : NEW HORIZONS OF LIBRARIANSHIP TOWARD THE 21ST CENTURY

サブテーマ

Sub-Themes

1. ニューメディアの影響

1. Impact of new media

ニューメディアの開発は学術雑誌、索引誌、抄録誌の形態を変えた。電子形態の雑誌やレファレンスブックが増加して来よう。印刷メディアの種類と形態が変わるであろう。出版、情報流通もこのような変化の影響を受けることになろう。図書館もこれらの変化に対する対応を考えねばならない。

Development of new media has changed the form of scientific journals, indexes and abstract journals. Journals and reference books in electronic form will increase in number. Printed media will change in type and form. Publishing and distribution channels will be affected by those changes. Libraries should find the -best way to cope with those changes.

2. 図書館サービスの変化

2. Changes in library services

ニューメディアの収集及び整理法の研究がなされると共に、MARCの普及によりカード目録を持たない図書館が一般化しよう。オンライン情報検索サービスの増加による影響も考慮に入れる必要がある。CATVなど新しい視聴覚メディアの普及により子供ばかりでなく成人の活字離れにも拍車がかゝることになりかねないので読書を促進する為の図書館の役割を強化する必要がある。更に生涯教育における図書館の責務も考慮されなければならない。

Collecting and processing of new media will be studied. Libraries without card catalogues will be more common as a result of wide use of machine readable bibliographic records (e.g. MARC). Impact of increase of on-line information retrieval services should be taken into consideration. As children and adults may read less as a result of new audiovisual media such as cable television, etc., library services to promote reading should be strengthened. The roles of libraries in further education should also be discussed.

3. 図書館利用者の変化

3. Changes in library users

各種データ・ベースが端末機で利用者と直接結ばれる

When readers are connected by terminals directly

よくなれば誰が図書館の利用者になるのだろうか？
何を求めて利用者は図書館へ来るのだろうか？ 図書館
はどんな使われ方をするのだろうか？ 利用者のために
どのような図書館利用のプログラムを用意する必要がある
のか？

4. 図書館管理・運営の変化

新しいメディア、図書館サービスの変化、利用者の要
求の多様化に伴って図書館は予算の配分、人事、組織等
において適切な管理・運営がなされなければならない。
図書館サービス・全国計画、図書館利用の有料サービス
の問題等も検討される必要がある。

5. 図書館員、情報専門職の教育と訓練

図書館の新しい役割に対処するために、図書館員や情
報専門職の教育と訓練の質、量、カリキュラム、教育の
レベル等について適切な計画が立案されるべきである。
更に現職者の再教育の計画も考える必要がある。

6. 情報利用における国際協力

テレ・コミュニケーションの発達によりオンラインに
よる情報検索の国際的利用が促進されるので、標準化、
互換性、著作権、料金等の問題を国際レベルにおいて解
決しなければならない。

7. 印刷・非印刷メディアの保護と保存

各国は印刷・非印刷メディア（写本・フィルム等）に
よる独自の文化遺産を持つが、今日それらは劣化の一途
をたどっている。そのような印刷・非印刷メディアが未
来への遺産として保護、保存される方策が講じられな
ければならない。

8. 先進国と発展途上国との関係

新しい技術の開発が先進国と発展途上国との間の格差
を増大しないように、知識、経験、技術及び人物の交流
を促進していく必要がある。その際、各国固有の文化—
国民性は尊重されるべきである。

9. 各国における図書館サービス発展の条件

図書館サービスの発展、出版活動の振興、文盲の撲滅
等に対する政策が国家的な見地から検討されなければ
ならない。

10. 新しい図書館の理念

新しい時代における図書館サービスの変化に対応して
各種図書館の理念や目的を改めて構想する必要があ
ろう。

with electronic publishers and databases, who will
be the new users of libraries? What kind of infor-
mation do users look for? How do they use libra-
ries? What instruction programs should libraries
prepare for the users?

4. Changes in library management

With new media, changes in library services and
diversity of users' demands, change in allocation of
budgets, personnel and organization in library ad-
ministration should be reconsidered accordingly. Na-
tional planning and fees for library services should
also be taken into consideration.

5. Education and training of librarians and in- formation specialists

To cope with new roles of libraries, education
and training of librarians and information specialists
should be properly planned in quality, quantity,
curriculum, level of education, etc. Retraining
programs should also be prepared.

6. International accessibility and cooperation in on-line information services

On-line information retrieval systems should be
more international with improved telecommunication
networks. Problems of standardization, compatibility,
copyright and fees at an international level must be
addressed.

7. Conservation and preservation of print and non-print media

Each country has its own particular heritage in
print media and non-print media (e.g. manuscripts,
films) which are in process of deterioration. They
should be conserved and preserved in good form for
the future generation.

8. Closer cooperation between developed and de- veloping countries

Differentials between developed and developing
countries will increase as a result of development
of new technologies. To bridge this gap, cooperation
such as exchange of knowledge, experience, persons
and technology should be promoted, while national
characteristics of each country should be respected.

9. Requirements for the development of library services in each country

National policies for the development of library
services, promotion of publishing activities, prob-
lems of illiteracy, etc. should be discussed.

10. New philosophy of librarianship

Coping with changing library services in the new
era, new theories and objectives of various types
of libraries should be conceived accordingly.

參考資料

DIVISIONS/SECTIONS/ROUND TABLES

- I GENERAL RESEARCH LIBRARIES
 - 1. National Libraries
 - 2. University Libraries and Other General Research Libraries
 - 3. Parliamentary Libraries
- II SPECIAL LIBRARIES
 - 4. Administrative Libraries
 - 5. Social Science Libraries
 - 6. Geography and Map Libraries
 - 7. Science and Technology Libraries
 - 28. Biological and Medical Sciences Libraries
 - 30. Art Libraries
- III LIBRARIES SERVING THE GENERAL PUBLIC
 - 8. Public Libraries
 - 9. Library Services to Hospital Patients and Handicapped Readers
 - 10. Children's Libraries
 - A. Librarians Representing Documentation Centres Serving Research on Children's Literature (RT)
 - 11. School Libraries
 - 31. Libraries for the Blind
 - B. National Centres for Library Services(RT)
 - C. INTAMEL(RT)
 - D. Mobile Libraries(RT)
 - 32. Library Services to Multi-cultural Populations.
- IV BIBLIOGRAPHIC CONTROL
 - 12. Bibliography
 - 13. Cataloguing
 - 29. Classification and Subject Cataloguing
- V COLLECTIONS AND SERVICES
 - 14. Acquisition and Exchange
 - 15. Interlending and Document Delivery
 - 16. Serial Publications
 - 17. Official Publications
 - 18. Rare and Precious Books and Documents
- VI MANAGEMENT AND TECHNOLOGY
 - 19. Conservation
 - 20. Library Buildings and Equipment
 - 21. Information Technology
 - 22. Statistics
 - F. Audiovisual Media(RT)
 - B. Management of Library Associations (RT)
- VII EDUCATION AND RESEARCH
 - 23. Library Schools and other Training Aspects
 - 24. Library Theory and Research
 - H. Library History(RT)
 - I. Editors of Library Journals(RT)
 - J. Research in Reading(RT)
- VIII REGIONAL ACTIVITIES
 - 25. Africa
 - 26. Asia
 - 27. Latin America and the Caribbean

